

「認知症の方を支援して」

介護保険が平成12年にスタートして17年。

開始当初からケアマネジャーとして様々な方の生活のお手伝いをさせていただきました。

クモ膜下出血後遺症の認知症

60代前半の男性。身体の機能はリハビリを受けて元気になりましたが、少しHな気持ちがコントロールできません。ショートステイ先で女性のお尻を触り転倒させそうになり利用禁止。

しかし面倒見の良いデイサービスを探し、本人を傷つけずさりげなく気をそらす等の神対応で毎日楽しく通うことが出来ました。カラオケや力仕事はお手の物。夜間の泊まりも対応OKとなりました。（なぜか、この人は私に指一本触れませんでした？）

転倒骨折入院で理解力が低下

80代後半のかわいいレディ。娘さんや孫と一緒に居して楽しく過ごしていましたが、ある日転倒。大たい骨骨折で入院したのをきっかけに少し判断力が低下。退院直後なのに自分が入院手術したことも忘れ外出したり、冷蔵庫に「あらまあ？」な物を入れたり、口いつば

「長寿サポートセンターって何ですか?」

長寿サポートセンターは江東区が設置している高齢者の相談窓口です。全国的には「地域包括支援センター」という名前で知られていますが、江東区では「長寿サポートセンター」という名前になっています。江東区も以前は地域包括支援センターでしたが、何をするところかわかりにくいという意見があつたので、より親しまれる愛称をということで長寿サポートセンターという名前になりました。わかりにくいのは、高齢者の相談窓口が二種類あつたせいかかもしれません。今年の4月から、長寿サポートセンターに一本化し、区内の21か所に設置されています。

だいたい高齢者5000人に対して長寿サポートセンターが一ヵ所あるようになっています。

一 気軽に、早く、どなたでも

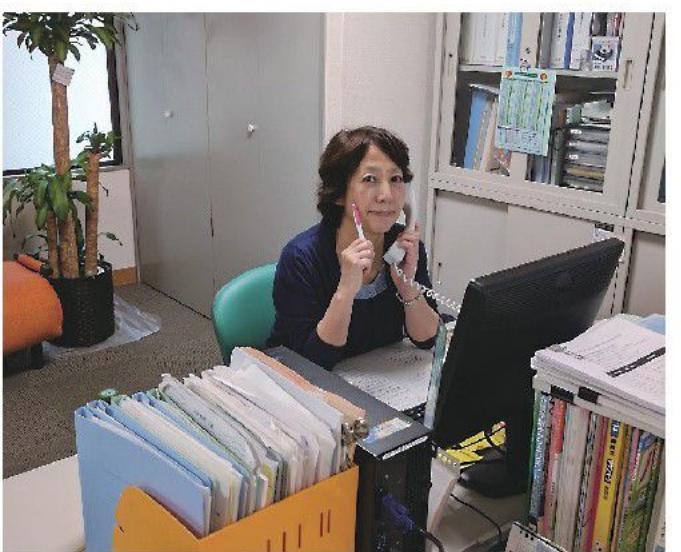
いざサービスを利用する時になると大なり小なり手続きが必要になります。要介護認定の申請や江東区のサービスの利用申請など役所が絡むものは手続きが必要です。高齢の方が必要とするサービス手続きの多くは私たちが受け付けることができます。また、当センターで担当できない相談内容に対しても担当できる部署等をご紹介することも私たち



古石場長寿サポートセンター  
介護支援専門員・社会福祉士

大変な状態でも「仕方がない」と思っていたり、大変だと自覚していなかつたりする場合も多くあります。高齢者ご本人やご家族だけでなく、ご友人や地域の方からの相談もお聞きしています。「あの人丈夫かな、気に入るなあ」という高齢者を見かけたら匿名でも結構ですので教えていただければ大変助かります。

長寿サポートセンターはまだまだ区民の皆



由良 久美子さん

いに食べ物を入れたり・・。  
そこで訪問リハビリの理学療法士さんを頼み、一緒に歩行練習や体操をしたり、好きなレクリエーションを楽しんだ結果、理解力や記憶力の低下を防ぐことができました。また、訪問看護師さんは月1回家族に介護の工夫等を教えてもらい、今では家族が休む時間が持てるようショートステイも時々利用。おかげ

送りたいと思うのは当たり前のこと。自宅での生活や介護が限界ということも場合によつてはあります。が、まず困つたな！と思つたら医療・介護の仕事をしている私たちに相談してください。一緒に考えればきっと良い方法がみつかります。

一度きりの人生を楽しく過ごすお手伝い。

この思いを大切にして、私たちは毎日がんば